

8. 展開 (全4時間)

時間	学習活動	指導上の留意点
1	<p>事前学習<中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 事前に課題レポートとして配布した【ワークシート① (問1～3)】を用いて、班で交流する。 5分 ▶ 班で出た意見を代表が発表し、全体交流する。 10分 ▶ 何かをつくる時の「作者のキモチ」を考える。 15分 <p>▶ 《ヤナイハラ I》の紹介 (作者とモデルとの関係性や2者の交流) を聞き、国立国際美術館や、美術館利用のマナーについて知る。【ワークシート① (問4～7)】 20分</p>	<p>過去の創作活動について振り返り、ものづくりの動機やこだわりなどの感情について、考えを深められるように助言する。</p> <p>自分が何かを作る時の気持ち (思い) をワークシートの設問から整理し、イメージすることにより、本時の題材の目的を身近に感じさせる。</p> <p>資料はシルエットだけ (展覧会のチラシ) など美術館に《ヤナイハラ I》をはじめ、様々な作品を鑑賞しに行くことを告知する。</p>
2 ・ 3	<p><美術館 (展示室) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 事前学習で触れた《ヤナイハラ I》を鑑賞する。 15分 ▶ 美術館で展示されている作品から「作品に込めたキモチが感じられる部分 (発掘ポイント)」を探す時間を取り、『アクティビティ・ブック』 (紹介文づくり: ワークシート②) を用いながら班ごとに鑑賞する。 35分 ▶ 班ごとに作品1点を選ぶことができたなら、講堂内にいる教員のもとへ報告に行き、ホワイトボードなど (展示会場図) に選んだ作品の写真資料や選んだ理由などを掲示する (付箋やペンを用いて)。 ▶ 他の班の活動を知り、再び展示室を見学したい班は、時間内であれば見学する。 35分 ▶ 次回の連絡を聞き、お礼の挨拶をする。 15分 	<p>班ごとにローテーションでギャラリートークしながら鑑賞させる。</p> <p>作者が作品に込めたキモチを探そう! キモチを見つけた、発掘した部分つまり「(キモチ) 発掘ポイント」はどこかな? 何かな? と声かけをする。 <u>なぜその作品を選んだのか、理由を詳しく考えさせる。</u> (展示室に入る前に、鑑賞マナーについて簡単に説明する。) 教員は展示室内外に配置し、写真等の記録係や質問受付係などにあたり館内での生徒の鑑賞活動がスムーズに行えるよう配慮する。</p> <p>鑑賞後に短時間で全体共有することを考慮し、振り返りを円滑にするために、会場図をもとに、選ばれた作品情報を掲示する。</p> <p>鑑賞を繰り返すことで、新たな発見や気づきを促す。</p> <p>次回までに『アクティビティ・ブック』 (紹介文づくり: ワークシート②) が不十分なら班でまとめておくことを伝える。</p>

4	事後学習<中学校>		
	▶ 班ごとに持ち帰った情報を共有する。 (どの作品を選んだのか、また、選んだ理由) 『アクティビティ・ブック』(紹介文づくり:ワークシート②)		15分
	▶ 美術館での鑑賞を踏まえ、館内の作品の中からジャコメッティ(作者)と《ヤナイハラI》(作品)の関係について班で考え、発表する。		15分
	▶ 改めて作品をつくる上での作者のキモチやモノづくりについて感じたこと、わかったことなど、ワークシート③に自分の考えを記入する。		15分
	▶ まとめと次回の連絡を聞く。	5分	

作者が作品に込めたキモチの一例として、《ヤナイハラI》を作った作者(ジャコメッティ)とそのモデルとなった矢内原伊作との交流から生まれた感情について考え、あらためて《ヤナイハラI》(作者が知人の姿を表現した作品)をどのように捉えるのか、班ごとに話し合わせる。

9. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
●造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	●《ヤナイハラI》の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を広げている。	●美術の創造活動の喜びを味わい楽しく作品や美術文化などの鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

指導案作成: 澤井静香、庄司愛、辻拡之、富長敦也、東影美香